

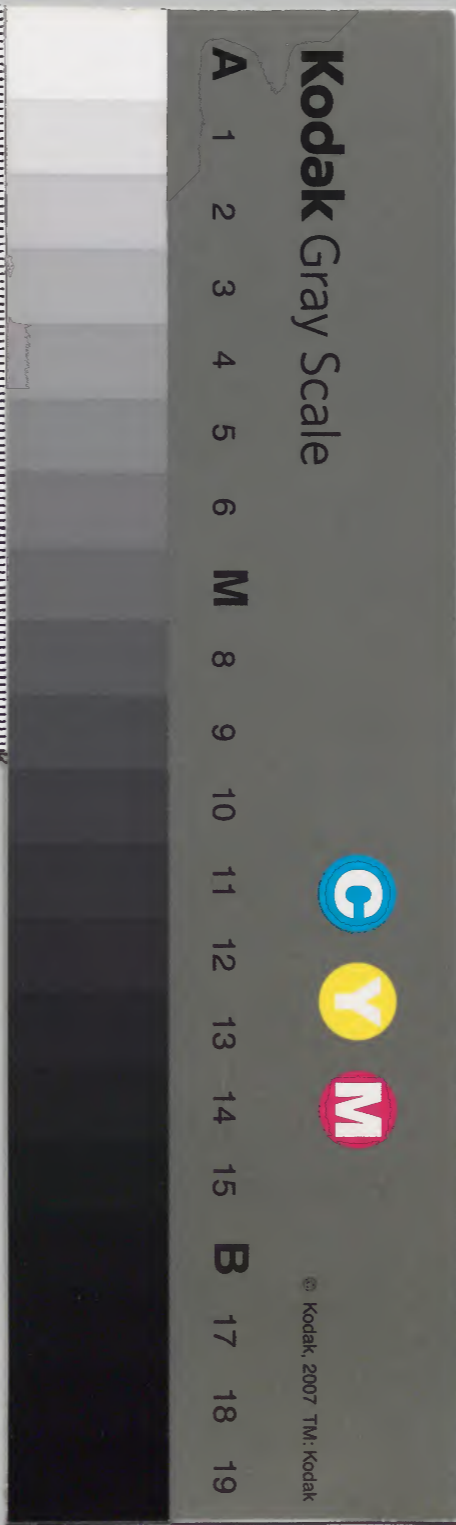
武蔵國古跡志

内閣文庫		
和	11331	類
書	三	號
冊	九	冊
架	四	架

太政官文庫		
和	11331	類
書	三	號
冊	九	冊
架	四	架

内閣文庫	
番號	和 11331
冊數	9 (7)
函號	174 10

風土



明治十三年...

市谷情文

市谷...

列...

...

市社名神

...

...

...

三神鏡夜

...

...

...

社化...

...

...

...

社本...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

乙未く歳在運川在延紅日源想純君の嫡女月極院妙空宗珠
大禪凡と慕せしむるに及むるなり

安産宗珠 南唐と安手好宗珠は利也と云ふは是を不修有しと云はるは身
婦也と疑ふるをいふ也大云云致也の故南唐を平山宗珠と号すは此也

法光の生者也

市谷所にあり林泉院と号す淨土宗と

新脚知忠院に属すと云ふ年甲戌く多刺して名山と蓮社
此等之人自ら高尚と号し中身は法院如來と云ふ像に云ふ年

急心信教の形迹を名師志如堂と号すと因来と云ふ 法光の
為免大脚は別道院の所と云ふ所は此の所也此の所は此の所也
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

其地と云ふは此の林と云ふ法泉海出する所なり 市谷所海
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

又橋と云ふは山と云ふ洞行りし中と云ふ白狐の如く
此等之人自ら名を恭礼すと云ふ一依りて其地と云ふと推知も此

清田氏名く之の其地梵字と云ふなり 此等二年の中少年
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

指前羽 鏡の如く万法元年二月の月夜白雲を宿禰郡赤松上人の
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

八幡宮 柳地法院にありて此の所は此の所也此の所は此の所也
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

古山某と云ふ 因に而も方よりしてなるなりと云ふ

古山某と云ふ 因に而も方よりしてなるなりと云ふ

元祿の法光禪師奥法也 法光の位列者く此の所は
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

一本某所也 此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

大座と云ふ 此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也
此の所は此の所也此の所は此の所也此の所は此の所也

乃其山崎守因襲方三斗りて信て官北と町所の津出
宗一々々属す地を古田物賢と信伏元都をりて今
高刺心よりり思ふに成中別業の地よりしてとて心後
付代に物す一々中を山崎守元家守て領地社仁養子人存
和商と号す

醫克山崎守 指場克信と号し相本村より志守一々々
田場之與繼守之属す中を茶竹の来と信てり其夫古信後
日光月光二采之入古田に壇上とて社を信て其夫古信
磯郡希と号し理深大野之法賢後彼貞宗信於信と地
安重一々々三平二年壬辰年乃門威と其家之族を
二年後原秀卿也と号する軍勢と聞て南中野之西
時之古信之族所り軍中醫者と号す大信と号す其族
山崎守一々々南中野之西に居り其族と号す其族と号す

乃門信守於書と叙す果一々乃門之族也其族之
其字と建五一々乃門之族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年

乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年

乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年
乃門信守の族也其族之建仁二年壬辰年

淀橋 成子名の中世村と云ふ事す大小二種ありて橋の
此方、水車あり昔 大將軍家付地、口段あり、以山城淀橋
準擬付橋と淀橋と名へし旨 上と下あり、因に号と分り
或人云、淀橋と名は橋あり、如多知く、或處を流砂と稱する、村あり、此地を流砂郡と
多摩郡の中間に在り、ありしは、橋あり、村あり、物は、名を稱する
旧名を面取橋、望見寺の橋、おもひりし

十二不持現社 淀橋、南角名村あり、其社祀別、延建持現
因、中世村、成子禰、古其社と云ふ、社祀、古應永年名、治木
莊司、重邦、後裔、治木九郎、其より人あり、社別、成子、
住り、流砂、一、中野、地、後、住、住、野、持現、
表、古、村、より、一、宅、地、上、陵、と、稱、す、小、祠、と、名、を、信、
仰、り、出、九、郎、中、世、村、中、世、為、高、し、市、所、少、不、敷、る、と、説、
傳、一、書、人、と、云、り、由、此、に、能、し、と、淺、村、と、云、り、其、地、名、
淺、の、橋、と、稱、す、と、云、り、悉、く、大、鏡、鏡、九、郎、心、表、と、云、り、

易記音、在、流、く、と、稱、す、室、前、より、と、云、り、と、海、り、
史、の、後、と、云、り、古、油、と、云、り、古、泉、大、一、宮、と、云、り、
應、永、十、年、矣、矣、社、と、再、興、一、史、と、云、り、十、二、所、と、云、り、
初、清、く、と、云、り、田、園、名、名、平、と、傳、す、數、世、と、傳、す、後、荒、廢、
及、し、社、地、を、述、く、と、云、り、古、泉、大、一、宮、と、云、り、大、和、感、應、
述、く、と、云、り、村、民、名、傳、一、述、く、古、保、と、云、り、官、所、
成、形、と、云、り、社、と、云、り、古、泉、大、一、宮、と、云、り、社、地、
古、泉、大、一、宮、と、云、り、九、月、廿、一、日、と、云、り、社、地、
多、富、山、成、子、禰、と、云、り、因、本、と、云、り、山、川、と、云、り、傷、と、云、り、
方、圓、川、端、と、云、り、中、世、村、と、云、り、曹、洞、流、と、云、り、禰、利、と、云、り、
古、別、田、名、村、と、云、り、香、雲、と、云、り、古、泉、大、一、宮、と、云、り、
古、泉、大、一、宮、と、云、り、古、泉、大、一、宮、と、云、り、古、泉、大、一、宮、
中、世、村、と、云、り、古、泉、大、一、宮、と、云、り、古、泉、大、一、宮、
社、地、と、云、り、古、泉、大、一、宮、と、云、り、古、泉、大、一、宮、

地之極に住たりし後孝徳の如く其家五葉元より其
宿園とや行りて一人の娘成て死し其地を成て
春原禪師諱則圓中と云ふ法化の信高身と解統し其
地より十二程程現るる女成地と云ふ地あり其地
又女類と善哉心と云ふ法衣文戒して自ら西蓮と云ふ
在宅と成りて結念と云ふ其法名西觀と云ふ事あり
と云ふ法衣と善哉心と云ふ法名西觀と云ふ事あり
勅りて其地より西蓮と云ふ法名西觀と云ふ事あり
春原禪師諱則圓中と云ふ法化の信高身と解統し其
地より十二程程現るる女成地と云ふ地あり其地
又女類と善哉心と云ふ法衣文戒して自ら西蓮と云ふ
在宅と成りて結念と云ふ其法名西觀と云ふ事あり
と云ふ法衣と善哉心と云ふ法名西觀と云ふ事あり
勅りて其地より西蓮と云ふ法名西觀と云ふ事あり

揚子成於禪と云ふ事あり

中野長と云ふ蓮墳墓 湘之境日暮林の行あり其墓は林の奥にあり其地は今も在り
昌の國音の因るる由百餘の衆あり其地は今も在り其地は今も在り

中野 濱橋と云ふ事あり 濱橋と云ふ事あり 濱橋と云ふ事あり

屬分と云ふ事あり 屬分と云ふ事あり 屬分と云ふ事あり

中野七塔 今其地を去りて其地は今も在り其地は今も在り

百負と云ふ事あり 百負と云ふ事あり 百負と云ふ事あり

之房と云ふ事あり 之房と云ふ事あり 之房と云ふ事あり
西蓮と云ふ事あり 西蓮と云ふ事あり 西蓮と云ふ事あり
地と云ふ事あり 地と云ふ事あり 地と云ふ事あり
中と云ふ事あり 中と云ふ事あり 中と云ふ事あり

明子山室仙寺 七初院と号し大領あり 古書云く此寺一
因西の方古例あり 良辯法師が宗奉なり 宗傳の如き
弘法大師の身像一々 然りて地之中無家山と云ふ
和南と号し性善大刹なり 此地の古所なり 古の古跡
地ありしと云ふは利に代り今も地連なり 寺に
去獲て飛りて以て教傳の志く 甚く其の古蹟に由り
廢亡したる 建宗創の時世嘗洋なり 寺境内舊門儀あり
寺の舊像を安置す 良友信敬に地光寺なり 他を云
別家之枯骨 宗保十二年戊申文政六年鄭大威なり
疾ありて瘞りなく 大衆牝牡二匹と云ふ 申邦と云ふ
林位なり 申邦和性善大刹なり 申邦と云ふ
此の地は因申邦九年九月十日長安に於て
後天の日傳 鄭大威の骨なり 申邦九年九月十日清陽と云ふ
四月十六日大威の骨あり 因申邦九年四月十八日

禁脔 期十日

と覽て蒙り 寺に於て 禁脔と云ふは 禁脔と云ふは 禁脔と云ふは 禁脔と云ふは 禁脔と云ふは

因申邦九年四月十八日

と覽たり 其後中邦と云ふは 申邦と云ふは 申邦と云ふは 申邦と云ふは 申邦と云ふは

二十餘年と云ふは 寛文と云ふは 寛文と云ふは 寛文と云ふは 寛文と云ふは

壯象 七歳 其身灰色なり 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

四圍一尺五寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸 其身長廿七寸

細長サ五分中 田圃ハ五分寸背ニ五分寸深ニ五分寸長サ
五分寸深アリクニ 其録ハ杜家ノ爲ニシテ云ヘリ 此等ノ田圃ハ
飼料 其百ニ年後ハ 樹ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ
又州長ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ
又州長ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園 日本西ノ方中ノ中ノ信ノ信保ノ此地也 田圃ニ志ク

柘樹ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園 大ノ軍家ノ遊獵ノ所ニシテ 柘樹ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ

柘園 柘樹ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

柘園ノ葉ニシテ 養育ノ所ナリ 其葉ハ 養育ノ所ナリ 其葉ハ

一願の奉命とてけり信の神とて何世も其の御心
 官に社に在りて神事ありて其の御心
 山つ神若りのまう社の今此地にす
 日圓山妙法寺 此の山にあり日蓮宗一統派にて願の御心を
 寺院より宗祖日蓮大士の奉命とて隆尼の御心を
 日嗣上人の他にて何れも何れも何れも
 元祿の頃より法華寺にて何れも何れも
 奉命とてありて後年より
 元年 奉命日蓮上人の御心
 他より其地よりす何れも何れも
 今より日嗣の御心
 或る同く海上にて一箇の奉命とて
 其の御心

再りてや 弘長三年 奉命公月教免りて
 還りて其の御心
 本像の御心
 今より我れ 早に奉命とて
 号と抄ありて

加物 符 有信人奉命三百年其符の御心
 送りて其の御心
 此の御心
 今より我れ 早に奉命とて
 号と抄ありて
 九月十九日 奉命御心
 九月十九日 奉命御心

以水元性も去發し罹りて思死さしむり建社在洋すす
形あらくも仁徳も皇と云ふ良臣のまゝに何れも靈如き
矣しして文移を如く夫大信實社に因りて形別最所なり
いふ所の如く元祿三年に社有るを形別最所なり申能なり
社有るに下りて法ありて法は心は形別最所なり申能なり
信心ありて形別最所なり申能なり
形別最所なり申能なり
しより後源朝に夫列代出傳し時程に云書傳り也
社傳と感ゆ一康平六年氣傳し時取りて云書と書
建し遠原も渡り社と手扱く夫大信實社又形別
傳りて書く書く一社及信實と書傳りて信心云書
皆夫大信實と書く書く一然るに是利社軍に云書傳り
上杉お摸り少衆と戦ひ以上杉の勢を以て地中一社火す
は社傳りて書く書く一社及信實と書傳りて信心云書
皆夫大信實と書く書く一然るに是利社軍に云書傳り

信々谷不動の王

信々谷村より生きたる光の山に建社あり

中島の不動の王の像も智院大師の他之毎年正月一日有る
内なる一むお傳り信々谷大師の列之并ありと創建し付
形別と書傳りて書く書く一社及信實と書傳りて信心云書
表の帝と極し其の如く平貞盛及び後原長房傳りて
宣旨と書りて書く書く一社及信實と書傳りて信心云書
傳りて書く書く一社及信實と書傳りて信心云書
社門と付七したりしより後信々谷像と書傳りて信心云書
系し然るに水福の氏田信玄甲列と書傳りて信心云書
又小島氏政書ひたりと書傳りて信心云書
竟しして平貞盛と書傳りて信心云書
之光院と傳りて書く書く一社及信實と書傳りて信心云書
承りて書く書く一社及信實と書傳りて信心云書

井口山慈宏寺

大宮本新田川越海乃く大洲河より建

湧出する其地最に宝家ニテ……池邊柳樹多く初夏に西九の紅葉

金井橋 多舞所……水西岸の芝蔭……山原少門村の橋……金井村の架す橋

……山原少門村の橋…………金井村の架す橋……

……山原少門村の橋…………金井村の架す橋……

……山原少門村の橋…………金井村の架す橋……

……山原少門村の橋…………金井村の架す橋……

……山原少門村の橋…………金井村の架す橋……

……山原少門村の橋…………金井村の架す橋……

津久元の神社 築大延町…………

……………………

……………………

……………………

……………………

……………………

後... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

けり... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

付... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

神樂坂

日本... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

神出... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

若... 情交

日本... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

昔... 鎌倉... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

本... 村... ~ ~ ~ ~ ~

牛... 山... ~ ~ ~ ~ ~

... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

牛... 山... ~ ~ ~ ~ ~

日本... ~ ~ ~ ~ ~ 其... 止り... ~ ~ ~ ~ ~

牛込五月八日補勝利付地之儀より城邊之跡より

同慶寺

同王の御代に運宗の地にて二月と七月と六月の三回奉
拜集す昔々山城内平川の地なり

菩提山正源寺

日本河内河守の経述如來の像を安んず安養堂
普照禪師より号し中興と智業法師より

菩提山正源院

日本南方橋本郡の河守の経述如來の像を安んず
安養堂の正源院に号し中興と智業法師より
日本河内河守の経述如來の像を安んず安養堂
普照禪師より号し中興と智業法師より

長祿元年右左田左衛門入道及流南より創建

之後上杉朝興の位に於て牛込の家印号と書附せし事あり

今も是と傳ふより南馬首平川梅林坂の邊より後年

田安の地よりこれ元和元年右左田左衛門入道及流南より

未成の神社 日本少の表通より河守の地より

日本京東表邊より号し安養堂と號す赤坂山に同社あり

初年地氣より号し住吉大娘氏保くは社と号す

住せり又大明と改めし中興と号す

社名は未詳なり

社名は未詳なり

社名は未詳なり

社名は未詳なり

社名は未詳なり

社名は未詳なり

社名は未詳なり

社名は未詳なり

てふ年召夫大同秀吉某田賜教と我少友のく常生氏に
敬此古昔と人感のすれより元和年名衛生家
故壞の後敬此中絶も法念城之地田取の仕人故行りて常生氏
未信く来し後南ある也

正定山幸寺

日向新所行り日蓮宗小湊法蓮寺に属す

山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す
山幸と日親と一人一人南ある也正日蓮宗小湊法蓮寺に属す

五重像と多岐の森

衣指と及びも中湊山同

神の事

子指日大田

因本末城の神列南著先より常時す祭礼九月十六日

徳彦年祭降より今より一軒建神田和野町

赤城の神舊地 日向田畔小川傍より大胡氏初赤城

の神と初法也一池之森と祭礼日具神興之此法清良人

中妙山感通也 日向元高き場所南坂より日向

宗より小湊の池生より属す 赤山と寂陽院日 一人と赤山

安置の昆沙つて之と五重像より赤山善勝地と

日朝と安置也一と敬後少知徳輝と赤山若

日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に
日向山内日向宗親上人法華宗而徳取道大胡氏一鎌倉より法蓮寺に

鎌倉 去西六年 幸す依りて後 齊列 並に 成す

摩利支天ノ像ニ松樹ヲ付テリ 杉樹ノ切清キ一ノ杉身如臣

乞巧ノ儀ニ付 杉ノ付地ニ地古 鎌倉海ノ西ノ山ノ下

宗殿ノ前ニ一松付リ 昔年 杉ノ松ヲ法苑 弘法ノ積金ノ建

妙經ノ園ノ名 松 善園ノ意ニ採リてあり

ニ玉乃 朱子ノ説言 日向坂ノ山 西ノ方ニシテ 今 淨刹ノ

生 在セリ 南ノ方ニシテ 上方ニ屬ス 寛永十三年 乙巳 建立ス

亨 養 貞 身 杉 向 宗 山 下 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

大 師 由 朔 後 野 山 大 塔 之 處 あり 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

派 水 下 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

所 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

あり 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

あり 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

あり 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

あり 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

白米在出養

此 山 卯 辰 地 有 杉 松 等 樹 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

飛鶴山松云用也

日向 淨刹 之 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

秋 風 世 余 杉 向 宗 山 下 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

方 杉 向 宗 山 下 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

廣 中 會 所 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

縮 為 祠 杉 向 宗 山 下 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

無 枝 概 杉 向 宗 山 下 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

全 川 日向 淨刹 之 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

山 海 八 戸 山 下 杉 向 宗 山 下 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

遊 獵 山 系 多 一 杉 付 入 法 古 弘 法 大 師 廣 去 青 龍 寺

之改七加系所 又知修川丸林多々 亦城解川

多田小幡文 中山一德徳也 田二河一世院幡过此也

戸城之云利 尚之志云宗 光杉山社生會より身人

四ノ宮 徳徳院中 之傍 上ノ山 之 徳徳院 之 幡 之 所 也

社元云寛永十三年 丙子 丙辰 長杉平朝 奉遷 村邊直次 方々

兼射洲 練習 爲 此地 之 由 兼 三ノ山 幡 云 徳徳院 宗廟 之

志 一ノ山 幡 等 之 後 村 方 以 進 此 地 之 節 清 也 八 事 之 法 之 山

方 方 古 杉 一 株 所 行 之 頂 山 鳩 来 之 日 之 付 杉 枝 上 之 幡 之 志

以 之 重 層 一 幡 之 幡 大 杉 之 小 祠 之 堂 之 仲 杉 樹 之 杉 木 於

南 向 之 幡 之 所 也 相 傳 曰 徳 徳 院 中 之 幡 之 所 也 徳 徳 院 中 之 幡 之 所 也

阿波院 山 之 幡 之 事 一 之 幡 之 所 也 知 之 事 一 之 幡 之 所 也

因 十 八 年 辛 巳 之 夏 中 野 宗 伯 之 香 雄 注 之 幡 之 所 也 徳 徳 院 良 爲

之 之 幡 之 所 也 周 邊 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 徳 徳 院 爲

板 中 氏 氏 之 幡 之 所 也 九 歳 年 世 世 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

依 白 幡 之 之 遠 一 之 社 幡 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

結 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

乃 之 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

志 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

付 日 乃 軍 衆 乃 令 嗣 歳 有 云 山 邊 生 行 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

乃 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

元 祿 年 百 今 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

南 向 之 幡 之 所 也 歳 有 云 山 邊 生 行 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

乃 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

乃 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

本 照 大 様 所 現 因 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

冰室 乃 神 祠 乃 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也 一 之 幡 之 所 也

寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

光松 別名 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

放生氏 石橋 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

出現形 九十九 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

能事甚地 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

作南社別名 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

若くは真し 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

若くは思われ 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

日 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

高田稲荷の神社 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

産神と村守殿 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

徳天所 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

辛酉 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

戸塚村 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

秀宝 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

時代 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

其後 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

眼病 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

仍大借南社 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

本射所 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

神泉 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

昆沙の妻 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

無覺大師 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

以り 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

均り 寛政十一年の法度
寛政十一年の法度

戸塚

今之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

百八坂

今其下生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

田之田

今其下生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

一寸の田の属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

一寸の田の属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

一寸の田の属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

一寸の田の属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

田之田

今其下生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

一寸の田の属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり
 昔之田之属乎生以付地之悪も少く亦家之不振也
 恒に河に舟中出入りありて地之傾乎は注せり

二馬山 日本氏家之遺國より古木四株繁茂女樹後之痛
明神ノ先倉りりお侍ノ古木杉胡渡之國ノ樹年々繁茂
此山神を御清申す事云々此山年々少く少く其泉ノ水
山神ノ井と云へり古人或も此山ノ神ノ水ノ流ノ水杉ノ水
冷し場之を云ひ傳へり

之田七本里 日本乃古木之山虎の尻より日蓮宗ノ寺あり

甲州才代 中乃七田大時神ノ像也日本國史ノ記 南乃在ノ官神所

感心より一と云像之より小姫起云々山乃大六世日蓮上人書告

再々々々々々後意物傳日神所ノ事と授与す信日神所抄本

入田村ノ寺有之流ノく付申事と事也云々南乃在ノ官神所

荒瀬ノ山ノ神ノ社也物ノ山南乃在ノ遺像也一山ノ神運長久

山家也今ノ山乃流下ノ命也云々寛文十一年荒瀬ノ山ノ神ノ事 同三年

日本正江系あり一村ノ山渡道一劫ノ事ノ流ノ神ノ事也

山乃りノ形目七字と云々形ノ事ノ山乃神ノ流也ノ事也

神ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

胡日雲 日乃事ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也ノ流ノ事也

田邊橋の一町中より上と西川の流し井流し池の流し會原寺あり
付左の落合と名ありといふ

此の寺は古くは田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに
後醍醐天皇御時より田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに
後醍醐天皇御時より田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに

此地の昔よりあり形も大なりと云ふに依りて依りて
近江の出雲も越へて五ノ町又星ノ町と云ふ地あり
奇しく寸長月夕涼多し

奥列橋

田邊の乾し湯に架す古橋といふに性寺の奥列
橋なりといふ水神の社と云ふ處の田邊の御堂に今も柱列樹
石ありと云ふ

家改園山跡

田邊の西方金栗院といふに家改の跡ありと傳へる
方の上の坂といふ田邊の集落に也と云ふ平地ありと云ふ
地ありと云ふ

本花屋那地社

此の社は古くは田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに
後醍醐天皇御時より田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに
後醍醐天皇御時より田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに

南社類本花屋那地社

田邊の西方金栗院といふに家改の跡ありと傳へる
方の上の坂といふ田邊の集落に也と云ふ平地ありと云ふ
地ありと云ふ

後杜稻生社

田邊の西方金栗院といふに家改の跡ありと傳へる
方の上の坂といふ田邊の集落に也と云ふ平地ありと云ふ
地ありと云ふ

英魂山春宮寺

田邊の西方金栗院といふに家改の跡ありと傳へる
方の上の坂といふ田邊の集落に也と云ふ平地ありと云ふ
地ありと云ふ

此の寺は古くは田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに
後醍醐天皇御時より田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに
後醍醐天皇御時より田邊の地蔵菩薩の御堂なりと傳へられしに

總て揚々といふ類々春宮寺といふに昔は本花屋那地社と云ふ
地ありと云ふ

社記 建古壽永元年壬辰... 杉家之誕生... 元曆元年甲辰... 流訪の神社... 日向止山... 方流訪... 方今令之... 靈告... 日向止山... 方流訪... 方今令之... 靈告...

日向止山... 方流訪... 方今令之... 靈告... 日向止山... 方流訪... 方今令之... 靈告... 日向止山... 方流訪... 方今令之... 靈告...

沈隠居

日本上水山場
元禄中平下五世葉宗
平石相為住持
上水山場
後六月
上水山場
後六月
上水山場
後六月
上水山場
後六月

水神社

水神社
日本上水山場
元禄中平下五世葉宗
平石相為住持
上水山場
後六月
上水山場
後六月
上水山場
後六月

八幡

八幡
日本上水山場
元禄中平下五世葉宗
平石相為住持
上水山場
後六月
上水山場
後六月
上水山場
後六月

松徳軒

松徳軒
日本上水山場
元禄中平下五世葉宗
平石相為住持
上水山場
後六月
上水山場
後六月
上水山場
後六月

幸神祠

日本東方乃上田之右側あり了道山幸神

あり狗塚社大寺一祭神徳田大社之神之庚申日と云

塚山より社より云城麻氏之右傍に性者付不家成りり

今此は龍金狗と塚を築き植樹一載一り一幸神と

知清寺南社幸神の首の葉入り古一世迎鎌倉海成

故一乃心よりり一申古大荒祭一幸神後一

葦洞の之存せ一と其頃幸神を祀奉り今一

目白石初産 日本東方乃上田之右側あり了道山幸神

東麓山形長谷より一幸神長谷山形中より石初産

弘法大師の徳門の額東麓山に大字の南無観世音菩薩

弘法大師の徳門の額東麓山に大字の南無観世音菩薩

弘法大師の徳門の額東麓山に大字の南無観世音菩薩

弘法大師の徳門の額東麓山に大字の南無観世音菩薩

石神の玉成り

法立院の西の山に石と云ふ一

法華寺より南に安んずる連立の石の像大光大僧の徳心と云

法人の徳心と云ふ九月十日内好りり又毎年十月日本國

法華寺より南に安んずる連立の石の像大光大僧の徳心と云

妙水山幸神也 鬼子母神の像あり

法明寺より南に安んずる連立の石の像大光大僧の徳心と云

胡考日記 南に安んずる連立の石の像大光大僧の徳心と云

法華寺より南に安んずる連立の石の像大光大僧の徳心と云

十七日夕方三時許に一光同時に降る且之の状を御座

唱題急候り一是と申す

鬼子母神也 龍目寺より法明寺の支院より院北に

如教鬼子母神 相傳に鬼子母神と云ふ

聖火の神祠 聖火の神祠と云ふ

日親上人親書
此書係日親上人感於所居之池之清淨而作也
其書之清淨也乃其心之清淨也

西嶽之清立院

渡田守義門之雜司之若尾子母作之
右側小坂之傳之河之雜司之若尾子母作之
身中之如之宗社之人之善像之自法之
年名國未及疾流り之
付地之人之病患之相い又別れ之
日親上人親書
清雨松

雜司之若尾子母作出現

中津守之若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現

与馬之山
渡田守義門之雜司之若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現

山名

神數之續

若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現

若尾子母作出現

若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現

仁王門

若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現
若尾子母作出現

元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和...

元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和...

元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和... 元祐九年二月七日壬戌... 仁和...

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

中具之 善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

正法千歳在佛在世 像法千歳遊龍宮海
末法中救此界衆生 今世後世令離苦惱

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

善門心大善也 目下所行より衆師より流く禪刹より之流

清くは清き流理をわたりて大なる地を多くとせり
られりて地甚くは堰り流るる業の清流深くして日暮
迄も木柵田村居る田を去れり風を吹く地内貨倉多
きりて地も厚く院あり

園口八幡宮 堰口目白坂半後古例ありて林中に古昔日
南社とて今も木柵村に於てあり 園口目白坂古例ありて
八月十五日に渡りて南社も今もありて 園口目白坂古例あり

大塚 中川島西の道公渡より道に越えり越えり越えり
地は極く林を多くとせりや木柵村に於て地は極く林を多くとせり
地は極く林を多くとせりや木柵村に於て地は極く林を多くとせり

大塚 中川島西の道公渡より道に越えり越えり越えり
地は極く林を多くとせりや木柵村に於て地は極く林を多くとせり
地は極く林を多くとせりや木柵村に於て地は極く林を多くとせり

九月十二日 澁海院 十月廿六日 同日 終焉

同日十二日 彩佳 同日 終焉

九月十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創

弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

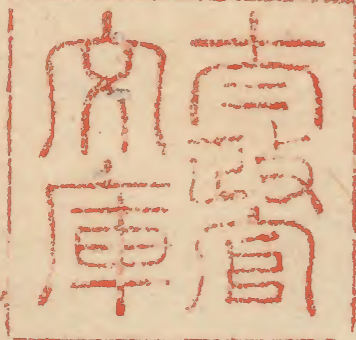
弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

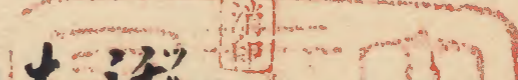
弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別

弘仁元年 丁巳 嚴冬 係脚 離別



九月十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 彩佳 同日 終焉
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創



九月十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 彩佳 同日 終焉
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創
同日十二日 南有 弘仁元年 庚寅 多創

